『たっち』は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

# たっち

立川市教育だより


●今号の主な内容
**2面** … 立川市中学生平和学習派遣事業において中学生が広島市を訪問／アール・ブリュット立川2023
**3面** … 市立小・中学校に電子黒板を整備／令和6年度以降に市立小学校で使用する教科書を採択
**4面** … 「特別支援教育講演会」開催のお知らせ／立川市の歴史と文化財



**編集・発行／立川市教育委員会**
〒190-8666　立川市泉町1156-9
☎042(523)2111(市役所代表)
**立川市ホームページ**
https://www.city.tachikawa.lg.jp/

**11.10**
**第52号**
**令和5年(2023年)**
**年3回発行**


たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和6年2月10日です。

# 立川市・大町市姉妹都市 中学生サミット

## 立川市の中学生が4年ぶりに大町市を訪問！

7月15日(土)・16日(日)、中学生18人が姉妹都市の長野県大町市を訪問し、大町市の中学生18人と交流しました。大町市との交流は平成3年度に始まり、平成27年度以降は、生徒会を中心とした相互訪問を行っています。今回は、コロナ禍を経て、4年ぶりに大町市を訪れることができました。「リアルな体験とリアルな交流を通して、SDGsの理解を共に深めよう」というテーマを設定し、「水の町　大町」という学習プログラムを体験し、交流を深めました。

問指導課・内線2498

立川市キャラクターくるりん／大町市キャラクターおおまぴょん

## 歓迎ムードの中、大町市に到着！

現地の中学校に着くと、大きな横断幕を持ってたくさんの人たちが出迎えてくれました。温かい歓迎ムードに包まれながら対面式を行い、自己紹介や昼食を通して早速交流が始まりました。「いつもより少し積極的に！」を合言葉に、すすんで言葉を交わし合う姿が見られました。

## リアルな体験　リアルな交流

1日目はサントリー天然水の北アルプス信濃の森工場と大町山岳博物館において、大自然と水との関係性や、雄大な北アルプスの麓で暮らす大町の人々の生活について学びました。2日目は、木崎湖でカヤックとSUP(スタンドアップパドル)の体験を行いました。天然水を実際に試飲したり、広大な山々に囲まれながら湖の水を肌で感じたりと、五感をフル活用させた体験ができました。

2日間という日程でしたが、両市の生徒は互いに交流を深めることができました。今後も自然や人と人とのかかわりを大切にして、よりよい社会の担い手となる生徒の育成を図ってまいります。

# 「立川市中学生平和学習派遣事業」において各校の代表の中学生が広島市を訪問しました。

平成30年度から「立川市中学生平和学習派遣事業」として各中学校の代表生徒９人を広島市へ派遣しています。参加した中学生は被爆地である広島市を訪問し、被爆した施設の見学や被爆された方などから当時の貴重なお話を伺いました。

原爆ドームを背に記念撮影

この事業は、中学生自らが平和についてより深く考え感じるとともに、在籍校の生徒や市民の方に広く発信することにより、市として平和の取組の充実を図ることを目的としています。

昨年までは１泊２日で実施していましたが、今年度は８月20日㈰から22日㈫までの２泊３日で行い、平和関連各施設を見学したり、多くの関係者の方から話を聴くなどして事業の充実を図りました。

原爆死没者慰霊碑

原爆の子の像

本川小学校平和資料館での見学の様子

１日目は、ガイドの方の案内のもと原爆ドームや平和記念公園内の各施設を見学した後、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を展示している平和記念資料館を見学しました。

２日目は、午前中に世界遺産である宮島の厳島神社を訪れ、日本の歴史と文化に触れた後、爆心地にもっとも近い小学校として多くの犠牲者を出した本川小学校の平和資料館と、同じく爆心地に近く被爆時の校舎の一部が保存されている袋町小学校の平和資料館を見学しました。

被爆体験者の話を伺っている様子

３日目には、当時15歳で被爆された方から被爆時やその前後の広島市の様子など貴重なお話を伺いました。

参加した中学生からは「原爆ドームを見て平和に対する思いが強くなった」、「実際に目で見て、話を聞いて、平和の大切さや戦争の恐ろしさを知った」、「被爆体験の話を聞き、資料を見るより、具体的に悲惨な話を聞いて強く伝わってきた」などの感想が寄せられました。

＊　＊　＊

今回の平和学習派遣事業については、生徒の在籍校において発表を行うとともに、令和６年１月27日㈯に開催する立川教育フォーラムで、参加した中学生が発表します。

**問高松学習館☎（527）0014**

## 幸学習館　かわせみカフェ

**12月16日㈯　午前10時～午後3時**

東京学芸大学の学生が企画し、幸学習館運営協議会が運営する「かわせみカフェ」を、「世代間交流」を目的に開催します。「食」をテーマにお手玉遊びや昔遊び、クイズやゲームを行います。お気軽にお立ち寄りください。直接会場へ。

昨年度の「かわせみカフェ」の様子

**問幸学習館☎（534）3076**

# アール・ブリュット立川2023 ～高松からの風～

アール・ブリュット立川実行委員会との共催で、「アール・ブリュット立川2023～高松からの風～」を９月６日㈬から９月19日㈫まで（９月11日㈪は休館日）開催しました。

アール・ブリュットとは正規の美術教育を受けていない人々が、伝統や社会の潮流に流されることなく独自の方法により制作した作品を指します。

アール・ブリュット作家だけでなく、地域の福祉作業所の方々の作品やこれまでに作成したポスターなどを、高松学習館のロビーや廊下階段などのスペースを使い多数展示し、多くの方に鑑賞いただきました。

併設の高松図書館では、期間中にアール・ブリュット関連本のミニ展示コーナーを設置するとともに、リサイクル本を配布しました。

また、９月８日㈮には障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会制作（立川市委託事業）の映画「バリアフルライフ」を上映したほか、９月10日㈰にワークショップ「オリジナルクリアファイルを作ろう」を実施しました。

**問高松学習館☎（527）0014**

# 市立小・中学校に電子黒板を整備します

今回導入を進めている電子黒板は、65型の大型ディスプレイです。画像や動画の表示はもちろん、専用ペンや指での文字や図形の書き込み、マーカーでの色付けなどができます。また書き込んだ板書や児童・生徒が書き込んだ解答などをデータとして保存することができ、授業の効率化が見込めます。

市は国のGIGAスクール構想に基づき、令和２・３年度の２か年で児童・生徒一人１台タブレットPCの整備を行いました。タブレットPCと電子黒板を併せて活用することで、児童・生徒にとってより分かりやすい授業や主体的・対話的な深い学びを実現することができます。

**導入スケジュール**

**令和5年度**

小学校4校、中学校9校 … 整備台数333台（10月に整備済み）

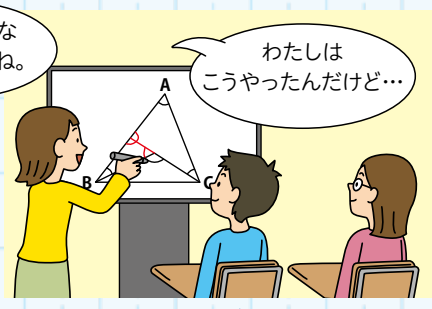
**令和6年度**

小学校15校に整備予定

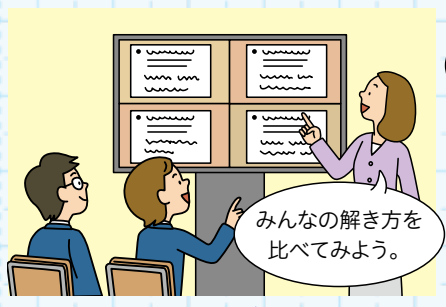
## こんな授業ができるようになります

電子黒板とタブレットPC、書画カメラなどを組み合わせてさまざまなことができます。その一例を紹介します。

授業の内容を振り返る




児童・生徒が発表する




児童・生徒が考えた
いくつかの解き方を比較して見せる

実演でやり方を示す

問学務課管理係・内線2510・2511

## 教育委員の活動を紹介します

令和５年５月から９月までの教育委員の活動は下表の通りです。

**活動実績**（令和５年５月～９月）

| | |
|---|---|
| 5月11日㈭ | 第９回教育委員会定例会 |
| 5月26日㈮ | 第10回教育委員会定例会 |
| 5月31日㈬ | 東京都市町村教育委員会連合会定期総会 |
| 6月７日㈬ | 第11回教育委員会定例会 |
| 6月14日㈬ | 学校訪問（松中小） |
| 6月22日㈭ | 第12回教育委員会定例会 |
| 6月28日㈬ | 学校訪問（南砂小） |
| 7月12日㈬ | 新学校給食共同調理場開所式 |
| 7月13日㈭ | 学校訪問（二中） |
| | 第13回教育委員会定例会 |
| 7月27日㈭ | 第14回教育委員会定例会 |
| 8月７日㈪ | 第15回教育委員会定例会 |
| 8月25日㈮ | 第16回教育委員会定例会 |
| 9月７日㈭ | 第17回教育委員会定例会 |
| 9月19日㈫ | 第１回教育委員会研修 |
| 9月20日㈬ | 第18回教育委員会定例会 |
| 9月22日㈮ | 学校訪問（六中） |

南砂小への学校訪問の様子

二中への学校訪問の様子

問教育総務課庶務係・内線2465

## 令和6年度以降に市立小学校で使用する教科書を採択しました

市教育委員会は、８月25日㈮に開催した教育委員会定例会において、令和６年度から令和９年度まで市立小学校で使用する教科書を右表のとおり採択しました。

採択に当たっては、学校長・保護者・市民を委員とする選定検討委員会や教員を部会員とする調査研究部会による検討、また教育委員会による協議を重ね、公平・公正な採択に努めました。

**市立小学校教科書採択発行者一覧**

| 種　目 | 発行者 |
|---|---|
| 国　語 | 東京書籍株式会社 |
| 書　写 | 光村図書出版株式会社 |
| 社　会 | 教育出版株式会社 |
| 地　図 | 株式会社帝国書院 |
| 算　数 | 東京書籍株式会社 |
| 理　科 | 教育出版株式会社 |
| 生　活 | 株式会社新興出版社啓林館 |
| 音　楽 | 教育出版株式会社 |
| 図画工作 | 日本文教出版株式会社 |
| 家　庭 | 東京書籍株式会社 |
| 保　健 | 株式会社大修館書店 |
| 英　語 | 光村図書出版株式会社 |
| 道　徳 | 株式会社光文書院 |

※１　第４・第５・第６学年の「地図」、第２学年の「生活」、第２・第４・第６学年の「図画工作」、第６学年の「家庭」、第４・第６学年の「保健」の教科用図書については、令和５年度以前に給与済みである「採択変更前の発行者の旧版教科用図書」を令和６年度も引き続き使用します。

※２　「国語」、「音楽」、「道徳」については、第２・第４・第６学年のみ、「採択変更前の発行者の新版教科用図書」を使用します。

問指導課指導係・内線2488

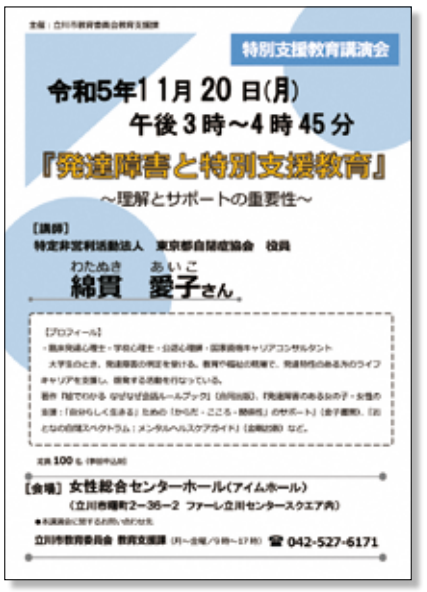


立川市役所（〒190-8666）立川市泉町1156-9 ☎042(523)2111（代表） Fax042(521)2653

# 「特別支援教育講演会」開催のお知らせ

市では、第３次特別支援教育実施計画に基づき、１「早期連携・早期支援の充実」、２「学校における指導体制・指導内容等の充実」、３「学校における特別支援教育の取組への支援」、４「関係機関との連携」、５「特別支援教育の理解啓発」、の５つの基本施策の下で事業を展開しています。

このうち、５「特別支援教育の理解啓発」では、発達障害教育を含む特別支援教育の推進と理解啓発のため、保護者、関係機関、市民等を対象に『特別支援教育をテーマとする講演会』を開催し、障害に対する正しい知識の普及や理解の促進に取組んでおり、今年度は下記のとおり開催します。




**テーマ**　「発達障害と特別支援教育～理解とサポートの重要性～」
※障害のある子どもの将来をイメージするための講演です。

**日時**　11月20日㈪午後３時～４時45分

**会場**　女性総合センターホール(アイムホール)

**講師**　綿貫 愛子氏(NPO法人東京都自閉症協会　役員)

**担当**　教育支援課就学相談係☎(527)6171

**立川市第3次特別支援教育実施計画体系図**

「つながり」を大切にした
特別支援教育の推進

基本理念

基本指針

基本施策 1
早期連携・早期支援の充実

基本施策 2
学校における
指導体制・指導内容等の充実

基本施策 3
学校における
特別支援教育の取組への支援

基本施策 4
関係機関との連携

基本施策 5
特別支援教育の理解啓発

16の取組項目と計画的な事業展開

立川市の歴史と文化財 52

# 決戦！立川原の戦い―立川で起きた戦国合戦―

日本史の中で、中世と呼ばれる時代は「戦乱の時代」とされています。特に武蔵野の広大な台地は有数の合戦場でした。鎌倉から戦国時代にかけて、多くの荒武者たちがこの草深き野を駆け巡り、関をあげ、兵刃を交えてきたのです。そして、ここ立川の地でも、室町から戦国時代にかけて、立川原合戦とよばれる戦いが起こりました。ここでは関東の室町・戦国史と絡めて立川原合戦を紹介します。

建武３(1336)年に京都で室町幕府が成立すると、幕府は関東の支配を鎌倉府に一任しました。当初、室町幕府と鎌倉府は協調関係にありましたが、徐々に対立にむかっていきます。この対立が表面化するのは六代将軍足利義教の時でした。義教は幕府に反抗的な四代鎌倉公方足利持氏の排除に乗り出します。永享10(1438)年に持氏が関東管領山内上杉憲実の追討のために挙兵すると、義教は憲実に命じて持氏を討伐させました(永享の乱)。

持氏討伐後、ほどなくして彼の遺児万寿王丸(のちの成氏)が後継者に擁立されます。これによって鎌倉公方は復権しますが、享徳３(1454)年に成氏が関東管領山内上杉憲忠を殺害すると、鎌倉公方(のちに古河公方)と関東管領・幕府との間で抗争が再燃します。この抗争は約30年にわたって展開し、関東全体に甚大な戦禍をもたらしました(享徳の乱)。

このうち、康正元(1455)年正月21日には古河公方と関東管領方が立川原で激突しています。

長きにわたる戦乱の末、文明14(1482)年に幕府と古河公方との間で和睦が成立しました(都鄙和睦)。ところが、この和睦をめぐり、交渉の仲介役を務めた関東管領上杉氏内部ですれ違いが生じ、今度は山内・扇谷両上杉氏の間で深刻な対立が起きます。そして、文明18(1486)年に扇谷上杉定正が家宰の太田道灌を殺害し、道灌の嫡子資康が山内上杉氏を頼ったことで対立は決定的となりました。両上杉氏による抗争は関東各地で展開し、容易に決着が付きませんでした(長享の乱)。戦況が大きく動くのは永正に入ってからです。そのきっかけが永正元(1504)年の立川原合戦でした。

「銅鉦鼓」(個人蔵)表面

永正元年８月、関東管領山内上杉顕定が扇谷上杉氏の城を攻めるなか、扇谷上杉朝良(定正の養子)は伊勢宗瑞(北条早雲)と今川氏親に援軍を要請します。そして、９月になり、古河公方足利政氏(成氏の子息)を擁した山内上杉方が立川原に陣を構えると、宗瑞・氏親と連携する扇谷上杉方もこれに対陣します。両軍が立川原に出揃い、合戦の火蓋が切られるのは９月27日のことです。この合戦は両上杉氏の争いの中でも屈指の激戦でした。結果として、扇谷上杉方がこの合戦に勝利し、大敗を喫した山内上杉方は二千余人の死者を出したといわれます。ところが、顕定はいったん撤退すると、越後上杉房能(顕定の実弟)の援軍を受けて態勢を立て直し、翌年３月には扇谷上杉氏に総攻撃を仕掛けてこれを屈服させました。こうして約20年にわたる両上杉氏の抗争は山内上杉氏の勝利で終結しました。

さて、この永正元年立川原合戦を今に伝える資料として「銅鉦鼓」(個人蔵)があります。これは山内上杉方として立川原合戦に参加した毛呂土佐入道幻世(俗名顕季)が合戦の戦死者を供養するために鋳造させたものです。「銅鉦鼓」は現在、東京都指定有形文化財であり、東京都文化財ウィークの期間中、10月24日(火)から11月26日(日)まで、歴史民俗資料館にて特別公開します。ぜひ会場までお越しください。

問 歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係)☎(525)0860